

25年版全国「住みたい田舎」

秋田市 年連続 位

記事A

宝島社（東京）の月刊誌「田舎暮らしの本」2月号で発表された「2025年版第13回住みたい田舎ベストランキング」で、秋田市が人口20万人以上の区分（33自治体）において若者世代・単身

者部門の1位に3年連続で選ばれた。秋田市は、23年版で「総合」のほか「若者・単身者」と「シニア」の3部門で1位になっており、近年、高評価を続けている。

宝島社は秋田市について、IT関連や再生可能エネルギーに関する新規

名前 年組

誘致企業などが増えていることに着目。地域経済が活性化され、雇用を創出している点を魅力の一つに挙げた。

また、交通インフラが

整い若者にとって住みやすいと評価。アートや映画、アニメなどのカルチャーに対してクリエイターが育ちやすい環境下にあるとした。子育て支援なども充実していると、「若者や子育て世代

に好まれるまちづくりを目指している点が素晴らしい」と分析した。

※【単身者】1人で暮らしている人。

※【新規誘致企業】新たに県や市町村などが地域の産業を盛んにするため招き入れた企業。

※【雇用】お金を払い人を雇うこと。

※【創出】新しいものをつくり出すこと。

※【交通インフラ】人の移動に必要な道路や鉄道などのこと。

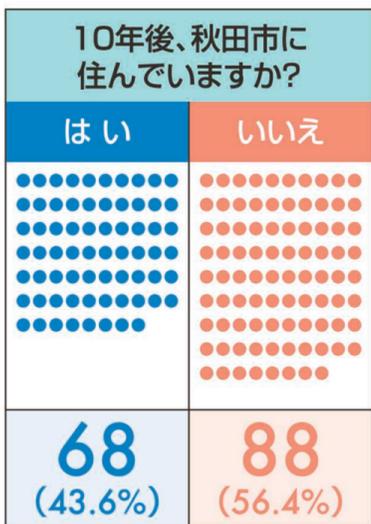
10年後、秋田市に住んでいる？

記事B

10年後、秋田市に住んでいますか。秋田市で「二十歳のつどい」が開かれた12日、会場となつたCNAアリーナで秋田

にアンケートを取ったところ、「いいえ」と答えた人が「はい」と答えた人を20人上回る結果となった。

「いいえ」を選んだ理由で最も多く聞かれたのが、首都圏など都市部に



比べて就職の選択肢が少ないことだった。

若者が集い、楽しめる場所が市内に少ないことを理由に挙げる人も一定

数いた。

市内の交通アクセスや利便性に難があるとの意見も聞かれた。

一方、「はい」と答えた人は、古里への愛着や愛情を理由に挙げる人が多かった。

秋田魁新報2025年1月14日付より。記事は手直ししています。

秋田魁新報2025年1月17日付より。記事は手直ししています。

1 記事Aの見出しの空欄に、正しい数字を入れましょう。「秋田市 年連続 位」

2 記事Bの「いいえ」を選んだ理由について、数の多い順に並べましょう。また、並べる際に注目した表現を に書きましょう。

① 交通アクセスや利便性に難がある。

注目した表現

② 都市部に比べて就職の選択肢が少ない。

注目した表現

③ 若者が集い、楽しめる場所が少ない。

注目した表現

多い順

→ →

3 6年生の木村さんのグループでは、二つの記事を読み比べて、話し合いたいことについて交流しました。次の中からふさわしいものを二つ選び、()に○を書きましょう。

- () 同じ秋田市のことなのに、結果がどうしてちがうのかな。
- () 「住みたい田舎ランキング」の2位以下はどこ自治体が選ばれたのかな。
- () 20歳の人達の10年後である30歳。ぼくたちはどんな仕事をしているのかな、会いたいな。
- () 記事Aでは、IT関連や再生可能エネルギーなどの企業の誘致が増えているというのに、記事Bでは、就職の選択肢が少ないとある。記事Bの20歳の人達は、どんな就職先を望んでいるのかな。